

松代群発地震に関する特別研究 (第2報)

Studies on the Matsushiro Earthquake Swarm (Report 2)^{*}

まえがき

松代群発地震は、その第2年目第3活動に入るや、予想もしていなかった数多くの地表異変を引きおこし、地震動に対してはすでに訓練のできていた松代町およびその周辺の住民を大変な恐怖におとし入れ、地震対策も軌道にのっていた関係機関にも大きなショックを与えた。地表異変としては、皆神山北麓の著しい地盤隆起、多数の地割れ発生と、地震活動のピーク後に生じた多量の湧水と地すべりである。その中著しい災害をもたらしたのは後の2者で、地すべりは従来「知られていなかった」地域に、この湧水が直接的原因となって次々と発生したものである。また、この湧水は当初は水質上普通の水か比較的低濃度のものであったが、日とともに塩分濃度をまし、飲み水や農業に多大の打撃を与えるものとなった。また、量が著しく多いため住宅にも被害を与えた。ここに報告する研究は、主にこの第3活動期に関係してなされたものである。

この研究を行なうに当り、終始協力をたまわった気象庁地震観測所、長野地方気象台、長野県、長野市、須坂市、更田市、上山田町、八倉町、坂井村および松代警察署、牧内地すべり対策本部、一陽館、その他現地住民の方々に感謝します。

なお、松代群発地震の特別研究第3次の中、国土地理院による測地学的研究はすでに別に報告されている。^(注1) 測地学的研究を除くこの協同研究の推進にたずさわったものは、第2研究部長丸山文行、地震防災研究室長高橋博、同研究室研究員高橋末雄、同鈴木宏芳、地表変動防災研究室長大石道夫、流動研究室飯島弘である。

この研究報告は、当所で刊行された研究報告書類の中で松代地震に関しては3冊目^(注2) (既刊：研究資料No.1、総研速報No.5)で、地震防災に関しては第10冊目(研究速報No.1、No.5、No.6、研究資料No.1、総合研究報告No.11、No.12、No.19、総合研究速報No.5、No.6)である。

注1：松代群発地震に伴う測地測量報告(第3報)(1967年6月) 国土地理院

注2：松代群発地震研究報告(第2次)は別に報告されている。昭和41年度特別研究促進調整費松代群発地震に関する特別研究(第2次)中間報告、昭和42年3月科学技術庁研究調整局

* 第1報は防災科学総合研究速報第5号である。

